

アロマオイルの薬理学的検討 1

Pharmacological Studies on the Essential Oils 1

○菅沼（清水）眞澄，七戸 和博

日本医科大学 実験動物施設

We investigated effect of aroma oils on the skin reaction induced by histamine as a model of allergic dermatitis. A sheet containing the aroma oils was applied on the dorsal neck of rats during a night. Evans blue solution was injected into their tail vein and histamine was inoculated intradermally into the dorsal skin of rats under anesthesia. The areas of blue spots with Evans blue exudation were measured as capillary permeability increase. Blue spots of rats treated with aroma oils were smaller than those of rats without aroma oils. It suggested that aroma oils have suppressive effect on histamine induced skin reaction.

【目的】

アロマセラピーは近年人気を博し，リラックスを目的とした social use は市民権を得ている。アロマオイルには植物由来の機能性成分が含まれ，その作用を積極的に医療に応用しようとする medical use も注目されている。抗ヒスタミン作用について，in vivo の系を用いて動物実験を行い有効性について検討した。

【方法】

ユーカリ・ローズマリー・オレンジのアロマオイルを含ませたシートを8週齢のSD系雄ラットの背面頸部に接着した。一晩別室に放置後，青色色素を静注し，直後に背部皮内に段階希釈したヒスタミンを接種した。30分後にシート接着群と非接着群について，血管透過性亢進の指標として青斑面積を比較検討した。

【結果】

ヒスタミン接種によって形成された青斑は，アロマオイル・シートを接着したラットの方が，対照群のものより有意に小さかった。

【結論】

アロマオイルにはテルペン類を主とした芳香性薬理活性物質が含まれており，これらがヒスタミンによる血管透過性の亢進を抑制したと考えられる。アロマセラピーがアレルギー性皮膚炎治療の一助となることが示唆された。